鉄砲洲神社詩吟　素読論語
（平成 27 年 10 月 23 日）

【四七】闕党の童子　命を将う。或ひと之を問いて曰く、益せんとする者かと。子曰く、吾　其の位に居るを見るなり。其の先生と並び行くを見るなり。益を求むる者に非ざるなり。速かに成らんことを欲する者なりと。

「闕党」の闕は村の名前。闕党の党は 500 件の家という一つの単位です。闕という村の少年が家の取次ぎをしている。お客さんが孔子に尋ねているところです。

お客さんが「優秀な人間だから取次ぎをさせているのですか」と聞いたら、孔子は「いやいや、あの少年は不出来な者で、勉強をさせるために取次ぎをさせているのです」と答えました。

二十歳まではいかない少年が背伸びをして、**「吾　其の位」**というのは、大人が座る場所です。まだまだ大人の座る場所に座ってはいけないし、老先生と肩を並べて歩くのはとんでもない。これは出しゃばりで孔子としては氣に入らない。

「益を求むる者に非ざるなり」は、まだまだ優秀ではなくて、これから勉強をしなくてはいけない。取次ぎをさせることによって、長幼の序や、自ずから分からなければならないことを身体で体験させる。

取次ぎですから、本当に偉い人かどうかを見極める眼力もいるので、眼力を養わせるためにも取次ぎをさせている。

「速やかに成らんことを欲する者なりと」優秀になりたいと思うだけで、ちっとも学ぼうとしないで一足飛びに一人前になろうとしているから、今ひとつひとつ教えている最中だという答えです。

今の時代に置きかえてみると、似たようなことは沢山あると感じます。

現代だと、小泉チルドレンが良いですかね。男性も女性も小泉旋風でドッと当選した人達が沢山いました。その後はどうでしょうか。

あの人達に照らし合わせてみると、たまたま小泉旋風が吹いたので当選してしまって、政治家になってしまった。政治家になってしまったら、まだまだ政治家として座るべき場所に座るような人物ではないにも関わらず、座ってしまう。最初はこんなに給料を貰ってよいのかとビクビクしていたが、しばらくすると貰って当たり前という態度に変わってし

まう。
　この間、新幹線に乗りましたら、議員さん達はちっとも優秀ではないのにパスを貰ってしまうから、大きな顔をして座っています。もう少し謙虚な顔をして座ればよいものを、回ってきた車掌さんが眉をしかめていました。眉をしかめていると氣づかないでふんぞり返っている。こういう人達は駄目だねと思って周りは見ていました。

　最近は、旋風で受かった高市早苗議員が大きな顔をするとか、親の七光りで受かった小渕優子が秘書任せにしていたものが、秘書が逮捕されて有罪判決を受けてしまった。本人は「すいません、何も分からないもので」と、お終いにしている。そういうものは、みなこの章句にピタリと当てはまっています。
　少年と捉えないで、まだ資格がない者が、たまたま資格ある者と肩を並べてしまったがために、偉くなったと錯覚してしまう。言い方を変えれば、日本の政治家として、まだまだその場にいる力のない者が、ベテラン政治家と同じ政治家として就いてしまう仕組みはいかがなものかと、ここを読みました。
　「まだまだその任に非ざるものが出てくる仕組みは、いかがなものか」と捉えれば、けっこう面白く読めると思いまして、ここはそう読ませていただきました。

　ちなみに「取次ぎ」は、ある程度立派な青年がやりますが、何でこんな少年にやらせているのか。少年でも先生のそばにいるから、少しは悟った人間なのかと聞いたら、まだどうにもならない人間だが、勉強のためにやらせている。ご迷惑をかけてすみませんねという感じの問答です。けっこう皮肉なのです。
　こういう場に出してはいけない人間だけれど出しました。この人間が、本当に勉強をする氣であれば、それでサッと悟って覚えていくだろうし、駄目だったら、とんでもない失態をして駄目になるから、それは救いませんということが裏にあります。